

モデル・コア・カリキュラム改訂に関する「連絡調整委員会」(第1回)
 及び「専門研究委員会」(第1回) 合同会議 ※資料は抜粋

議 事 次 第

日 時：平成28年3月30日(水) 10:00～12:00
 場 所：文部科学省13階 13F1～3会議室

○開 会

○議 事

1. 委員長の選任について
2. 開催趣旨等について
3. モデル・コア・カリキュラムの策定及び改訂の経緯について
4. モデル・コア・カリキュラム改訂の方向性について
5. その他

○閉 会

(配付資料)

- 資料1 医学教育モデル・コア・カリキュラム及び歯学教育モデル・コア・カリキュラム改訂に関する恒常的な組織の設置について
- 資料2 医学教育・歯学教育に係るモデル・コア・カリキュラムの改訂について(案)
- 資料3 モデル・コア・カリキュラムの策定及び改訂の経緯
- 資料4 医学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂に向けた医学調査研究チーム第1回会議報告【調査研究チーム(医学教育)提出資料】
- 資料5 歯学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂に向けた歯学調査研究チーム第1回会議報告【調査研究チーム(歯学教育)提出資料】
- 資料6-1 厚生労働省における医師養成課程を巡る近年の取組【厚生労働省提出資料】
- 資料6-2 臨床研修の到達目標、方略及び評価の骨格案(厚生労働科学研究班案)
【厚生労働省提出資料】
- 資料7-1 医の倫理綱領【釜范委員提出資料】
- 資料7-2 日本医師会綱領【釜范委員提出資料】
- 資料7-3 平成28年度「日本医師会生涯教育制度」実施要綱【釜范委員提出資料】
- 資料7-4 日本医師会生涯教育カリキュラム<2016>【釜范委員提出資料】
- 資料8 2016年3月14日付け週刊医学界新聞抜粋(日本医学教育評価機構発足について)
【奈良委員提出資料】
- 資料9-1 日本歯科医師会倫理綱領【柳川委員提出資料】
- 資料9-2 日本歯科医師会生涯研修に係るグランドデザイン及び意見書
【柳川委員提出資料】
- 資料9-3 平成26・27年度日歯生涯研修事業実施要領【柳川委員提出資料】

医学教育モデル・コア・カリキュラム及び歯学教育モデル・コア・カリキュラム改訂
に関する恒常的な組織の設置について

平成19年5月30日 設 置
平成22年6月9日一部改正
高 等 教 育 局 長

1. 目 的

「医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議」の報告を踏まえ、医学教育モデル・コア・カリキュラム及び歯学教育モデル・コア・カリキュラム（以下「モデル・コア・カリキュラム」という。）の改訂に関する恒常的な組織を設置する。

2. 役 割

- (1) 医師国家試験出題基準及び歯科医師国家試験出題基準の改正や法制度・名称等の変更に
対応した、モデル・コア・カリキュラムの改訂
- (2) 学生への教育効果の検証等、モデル・コア・カリキュラムの検証・評価
- (3) モデル・コア・カリキュラムの改訂に必要な調査研究
- (4) モデル・コア・カリキュラムの関係機関への周知徹底、各大学の取組状況の検証等、モ
デル・コア・カリキュラムの活用に必要な事項
- (5) その他モデル・コア・カリキュラムの改訂に必要な事項

3. 設置組織の構成等

- (1) 専門的な調査研究等を行いモデル・コア・カリキュラムの改訂の原案の作成等を行う組
織（モデル・コア・カリキュラム改訂に関する専門研究委員会）と、モデル・コア・カ
リキュラムの改訂等を決定する組織（モデル・コア・カリキュラム改訂に関する連絡調
整委員会）を設置し、文部科学省が主催する。
- (2) (1) の委員会の構成は別紙のとおりとする。
- (3) 必要に応じ、調査研究等を分担させるため必要な組織を置くことができるものとする。
- (4) 必要に応じ、関係者からの意見等を聴くことができるものとする。

4. 委 員

- (1) 委員については、医学教育又は歯学教育のカリキュラム、医師又は歯科医師の国家試験
等について優れた識見を有する者、その他関係者のうちから委嘱する。
- (2) 委員の任期は、委嘱した日の属する会計年度の翌会計年度末までとする。
- (3) 必要に応じ委員を追加することができる。
- (4) 委員は再任されることができる。

5. その他

3の組織に関する庶務は、高等教育局医学教育課が処理する。

(別紙)

「モデル・コア・カリキュラム改訂に関する連絡調整委員会」委員名簿

※敬称略、五十音順

荒川 哲男	一般社団法人全国医学部長病院長会議会長、大阪市立大学医学部長
井出 吉信	一般社団法人日本私立歯科大学協会会長、東京歯科大学学長
江藤 一洋	公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構副理事長、 東京医科歯科大学名誉教授
寺門 成真	文部科学省高等教育局医学教育課長
寺野 彰	一般社団法人日本私立医科大学協会会長、学校法人獨協学園理事長
永井 良三	自治医科大学学長
守山 正胤	国立大学医学部長会議常置委員会委員長、大分大学医学部長

計 7 名

(オブザーバー)

高久 史麿	日本医学会会長、 公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構理事長
-------	---------------------------------------

平成 28 年 3 月 30 日現在

「モデル・コア・カリキュラム改訂に関する専門研究委員会」委員名簿

※敬称略、五十音順

(医学教育)

泉 美貴	東京医科大学教授
梶井 英治	自治医科大学地域医療学センター長
釜菟 敏	公益社団法人日本医師会常任理事
北村 聖	東京大学医学教育国際研究センター教授
齋藤 宣彦	公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構副理事長
田中雄二郎	東京医科歯科大学理事・副学長（医療・国際協力担当）
奈良 信雄	東京医科歯科大学特命教授
福井 次矢	学校法人聖路加国際大学理事長、聖路加国際病院院長
福島 統	東京慈恵会医科大学教育センター長

(歯学教育)

五島 衣子	昭和大学歯学部講師
斎藤 隆史	北海道医療大学歯学部長
嶋田 昌彦	東京医科歯科大学歯学部附属病院長
関本 恒夫	日本歯科大学新潟生命歯学部長
田上 順次	東京医科歯科大学理事・副学長（教育・学生・国際交流担当）
西原 達次	九州歯科大学理事長・学長
前田 健康	新潟大学歯学部長
俣木 志朗	日本歯科医学教育学会理事長、東京医科歯科大学教授
柳川 忠廣	公益社団法人日本歯科医師会副会長

(共通)

邊見 公雄	公益社団法人全国自治体病院協議会会長
南 砂	読売新聞東京本社取締役調査研究本部長
山口 育子	NPO法人ささえあい医療人権センターCOML理事長

計 21 名

(オブザーバー)

渡辺 真俊	厚生労働省医政局医事課長
鳥山 佳則	厚生労働省医政局歯科保健課長

平成 28 年 3 月 30 日現在

医学教育・歯学教育に係るモデル・コア・カリキュラムの改訂について（案）

1. これまでの取組

- 「医学教育モデル・コア・カリキュラム」及び「歯学教育モデル・コア・カリキュラム」の策定
 - 学生が卒業時まで身に付けておくべき、必須の実践的診療能力(知識・技能・態度)に関する到達目標を明確化した、医学・歯学教育の指針(H13.3策定、H19.12、H23.3改訂)

2. 今後の取組

(1) 検討内容

- 平成28年度末を目途として、モデル・コア・カリキュラムの改訂を実施

(背景)

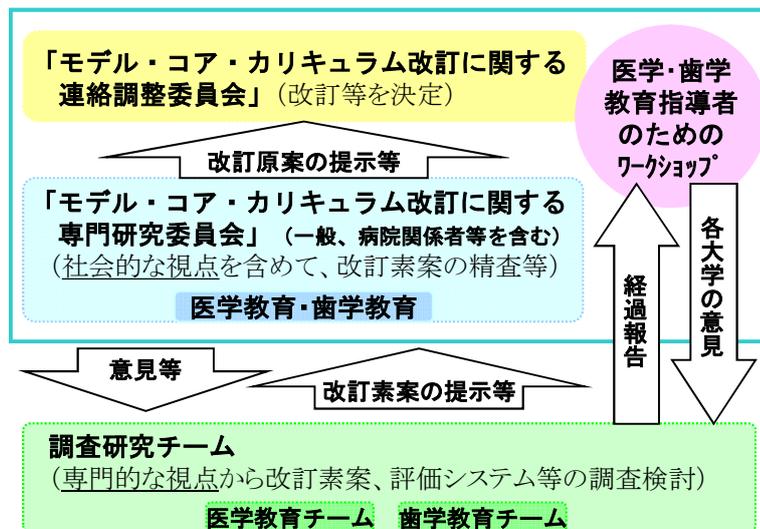
- ①医学・歯学教育のサイクル(6年間)に合わせたカリキュラム内容の見直し時期の到来
- ②国試や新たな専門医制度等、各種制度変更への対応
- ③新たな認証評価基準(グローバルスタンダード)への対応 等

(2) 検討体制

- 改訂原案の作成等を行う**専門研究委員会**と、改訂等を決定する**連絡調整委員会**を設置し、文部科学省が主催。

- 専門的な視点による調査研究に基づく改訂素案等の作成等については、文部科学省から**調査研究チーム**に委託。

- 医学・歯学教育指導者のためのワークショップ(H28.7.27開催予定※)にて検討の経過報告や、各大学との意見交換等を実施。



※文部科学省主催。医科・歯科大学学長、医学部長・歯学部長等を対象として、直面する教育課題等について意見交換等を行い、各大学の主体的かつ組織的な教育内容の改善につなげることを目的として毎年度実施しているもの。

(3) 検討スケジュール

平成28年

- 3月30日 「連絡調整委員会」(第1回)・「専門研究委員会」(第1回)【改訂の方向性について等】
- 6月15日 「専門研究委員会(歯学教育)」(第2回)の開催【個別論点に係る審議】
- 7月6日 「専門研究委員会(医学教育)」(第3回)の開催【個別論点に係る審議】
- 7月27日 医学・歯学教育指導者のためのワークショップ
- 10~11月 「連絡調整委員会」(第2回)・「専門研究委員会」(第4回)【改訂「骨子案」の提示】
＜パブリック・コメント実施＞

平成29年

- 1~2月 「専門研究委員会」(第5回)【「改訂原案」の取りまとめ】
- 3月 「連絡調整委員会」(第3回)【「改訂版モデル・コア・カリキュラム」の決定】 →公表・周知

平成30年4月 各大学において、改訂版モデル・コア・カリキュラムに基づく教育を開始

モデル・コア・カリキュラムの策定及び改訂の経緯

平成11年2月

21世紀における医師・歯科医師の育成体制の在り方をまとめた「21世紀医学・医療懇談会第4次報告」が提言され、今後の医学・歯学教育改革を一層加速させるための積極的かつ具体的な方策をまとめるために、「医学・歯学教育の在り方に関する調査研究協力者会議」が設置される。

平成13年3月

「医学・歯学教育の在り方に関する調査研究協力者会議」（高久史磨座長）において、医学・歯学に係る大学関係者自らによる検討を経て、**「医学教育モデル・コア・カリキュラム」及び「歯学教育モデル・コア・カリキュラム」を策定。**

＜ポイント＞

- **近年の医学・歯学や生命科学の著しい進歩、医療を取り巻く社会的変化に対応して、医学部・歯学部における教育の抜本的改善を目的に作成。**
- 21世紀における我が国の医学・歯学・医療の担い手となる**医学部・歯学部の学生が、卒業時までに通じて修得すべき必須の基本となる教育内容と到達目標を提示。**
- 各医科大学（医学部）や歯科大学（歯学部）が編成するカリキュラムの参考となるもの。
- モデル・コア・カリキュラムの内容は、学生の履修時間数（単位数）の3分の2程度を目安としており、残り3分の1程度は各大学が特色ある選択制カリキュラムを作成・実施。
- 新しい教育の内容を、教員だけでなく学生や社会一般にも分かりやすい形で表示。
- 生物学をはじめとする基礎科学については、別途「準備教育モデル・コア・カリキュラム」として、医学・歯学共通の基本となる内容を提示。

平成19年12月

「医学・歯学教育の在り方に関する調査研究協力者会議」の報告を踏まえ、医学教育モデル・コア・カリキュラムおよび歯学教育モデル・コア・カリキュラム改訂に関する恒久的な組織（連絡調整委員会・専門研究委員会※）を設置し、当該委員会での検討を経て、地域保健・医療、腫瘍、医療安全等の観点から、**「医学教育モデル・コア・カリキュラム」及び「歯学教育モデル・コア・カリキュラム」を改訂。**

※連絡調整委員会：モデル・コア・カリキュラムの改訂内容を決定。
 ※専門研究委員会：各大学の実態等を踏まえ、改訂原案を作成。

＜ポイント＞

- 「医学教育モデル・コア・カリキュラム」については、①**地域保健・医療、腫瘍、医療安全に関する学習内容の充実**、②**「医師として求められる基本的な資質」についての記載や「地域医療臨床実習」に関する項目の新設**、③**学部教育における研究の視点に係る記載の充実**、④**法制度、名称等の変更に伴う用語等の修正。**

- 「歯学教育モデル・コア・カリキュラム」については、「**歯科医師として求められる基本的な資質**」についての記載を新設するなど、上記の医学教育に係る改訂と同様の観点から、**主としてモデル・コア・カリキュラムの運用解釈を基本とした必要最小限の改訂**。

平成23年2月

「医学教育カリキュラム検討会」（荒川正昭座長）及び「歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議」（江藤一洋座長）の提言を踏まえ、モデル・コア・カリキュラムの改訂に関する「連絡調整委員会」及び「専門研究委員会」における検討を経て、「**医学教育モデル・コア・カリキュラム**」および「**歯学教育モデル・コア・カリキュラム**」を改訂。

<ポイント>

- 「医学教育モデル・コア・カリキュラム」

(1) **基本的診療能力の確実な習得**

- ・「医師として求められる基本的な資質」の記載内容の修正。
- ・臨床実習終了時までには到達すべき総合的な診療能力の基礎としての、知識、技能、態度に関する目標を明確化。

(2) **地域の医療を担う意欲・使命感の向上**

- ・「医師として求められる基本的な資質」に、「地域医療の向上に貢献する」旨を追加。
- ・地域医療に関して、入学時から段階的・有機的に関連づけて実施することに効果的に体験を蓄積していくことが必要であることを記載。

(3) **基礎と臨床の有機的連携による研究マインドの涵養**

- ・「医師として求められる基本的な資質」に、「研究を遂行する意欲と基礎的素養を有する」ことを記載。
- ・「A 基本事項」に「医学研究への志向の涵養」に係る項目を新設。
- ・準備教育モデル・コア・カリキュラムと併せて位置づけてきた「生命現象の科学」について、本カリキュラム中にも明確に位置づけ。

(4) **社会的ニーズへの対応**

- ①医師として普遍的に求められる資質の観点
- ②医療安全（患者および医療従事者の安全性確保）の観点
- ③患者中心のチーム医療（医療分野における多職種連携）の観点
- ④その他（少子高齢化、男女共同参画の促進）

に対応する観点から、モデル・コア・カリキュラム全体の量的抑制に留意しつつ、記載の充実等を実施。

(5) **モデル・コア・カリキュラムの利便性向上等に係る対応**

- ・記載の簡略化等。

(6) **大学、学会等へ期待する事項**

- ・卒前の研究室配属などの学生時代から医学研究への志向を涵養する教育や、医療関係者以外の方の声を聴くなどの授業方法の工夫など、各大学における特色ある取組の実施。
- ・より効果的な教育方法の確立に向けた、学会等における具体的教育手法や教材開発。
- ・今回の改訂の主眼である基本的臨床能力の習得のため、各大学・大学病院が、臨床実習に参加する学生の適性と質を保証し、患者の安全とプライバシー保護に十分配慮した上で、診療参加型臨床実習の一層の充実。

※「**医師として求められる基本的な資質**」の見直しを行い、以下のとおりとした。

（医師としての職責）

- ・豊かな人間性と生命の尊厳についての深い認識を有し、人の命と健康を守る医師としての職責を自覚する。

（患者中心の視点）

- ・患者およびその家族の秘密を守り、医師の義務や医療倫理を遵守するとともに、患者の安

全を最優先し、常に患者中心の立場に立つ。

(コミュニケーション能力)

- ・医療内容を分かりやすく説明する等、患者やその家族との対話を通じて、良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を有する。

(チーム医療)

- ・医療チームの構成員として、相互の尊重のもとに適切な行動をとるとともに、後輩等に対する指導を行う。

(総合的診療能力)

- ・統合された知識、技能、態度に基づき、全身を総合的に診療するための実践的能力を有する。

(地域医療)

- ・医療を巡る社会経済的動向を把握し、地域医療の向上に貢献するとともに、地域の保健・医療・福祉・介護および行政等と連携協力する。

(医学研究への志向)

- ・医学・医療の進歩と改善に資するために研究を遂行する意欲と基礎的素養を有する。

(自己研鑽)

- ・男女を問わずキャリアを継続させて、生涯にわたり自己研鑽を続ける意欲と態度を有する。

○ 「歯学教育モデル・コア・カリキュラム」

(1) **歯科医師として必要な臨床能力の確保**

- ・臨床実習終了時（卒業時）までに、到達すべき総合的な診療能力の基礎としての知識・技能・態度に関する目標を明確化。
- ・診療参加型臨床実習の充実。
前提となる診療技能の向上・確保について学生が卒業時に到達すべき目標を明確化。

(2) **優れた歯科医師を養成する体系的な歯学教育の実施**

- ・「歯科医師として求められる基本的な資質」の記載内容を修正。
- ・幅広い歯学教育が行えるよう関連項目に係る記載内容の改善・充実。

(3) **未来の歯科医療を拓く研究者の養成**

学生の興味や将来の専門分野への志向に応じて、学生が自由に選択可能なプログラムを提供すること、研究室配属等とおした科学的・論理的思考の修得や基礎研究や臨床研究を実施するため必要な基礎的訓練等、学部教育のあらゆる段階を通じて学生一人ひとりの研究志向の涵養に努めるべきことを記載。

(4) **多様な社会的ニーズへの対応**

歯学教育に係る多様な社会的ニーズのうち、緊急性が高く、歯科の関与により社会への貢献が大きいと考えられる内容について改訂。

① 歯科医師として普遍的に求められる資質の観点

モデル・コア・カリキュラム全体を包括した「歯科医師として求められる基本的な資質」として8つにまとめ冒頭に記載。

② 医療安全（患者および医療従事者の安全性確保）の観点

院内感染を含む医療関連感染症、薬剤等の副作用、薬害等における医療安全に関わる記載を充実。

③ 患者中心のチーム医療（医療分野における多職種連携）の観点

- ・チーム医療の記載を充実。
- ・歯科医師に必要な医学的知識を新設。

④ その他

- ・大規模災害などにおける、歯科による個人識別を用いた被害者の迅速な特定や歯科疾患の状況の把握および応急的対応を新設。
- ・小児虐待の兆候と対応を新設。

(5) **モデル・コア・カリキュラムの利便性向上等に係る対応**

① 全体構成の工夫

「準備教育モデル・コア・カリキュラム」における専門領域に関連が深い「生命現象の科学」の項目を統合して内容を整理。

② 関連領域の整理

関連が深い従来の「A 医の原則」と「B 歯科医師としての基本的な態度」を統合し、

「A 基本事項」とした。併せて、統合後の記載内容を見直し、項目数を削減。

③表記の調整

用語等については必要に応じて、適正な表記への修正や追加。

④旧モデル・コア・カリキュラムの臨床実習の量的配分の例示の取扱い。

例示の内容については、大学独自の判断で設定されるべきものであることから、今回の改訂版からは削除。

※「歯科医師として求められる基本的な資質」の見直しを行い、以下のとおりとした。

(歯科医師としての職責)

- ・豊かな人間性と生命の尊厳についての深い認識を有し、口腔の健康を通じて人の命と生活を守る歯科医師としての職責を自覚する。

(患者中心の視点)

- ・患者およびその家族の秘密を守り、歯科医師の義務や医療倫理を遵守するとともに、患者の安全を最優先し、常に患者中心の立場に立つ。

(コミュニケーション能力)

- ・歯科医療の内容を分かりやすく説明するなど、患者やその家族との対話を通じて、良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を有する。

(チーム医療)

- ・医療チームの構成員として、相互の尊重のもとに適切な行動をとるとともに、後輩等に対する指導を行う。

(総合的診療能力)

- ・統合された知識、技能、態度に基づき、口腔のみならず、全身的、精神的、社会的状況に対応可能な、総合的に診療するための実践的能力を有する。

(地域医療)

- ・医療を巡る社会経済的動向を把握し、地域医療の向上に貢献するとともに、地域の保健・医療・福祉・介護および行政等と連携協力する。

(研究志向)

- ・歯科医学・医療の進歩と改善に資するために研究を遂行する意欲と基礎的素養を有する。

(自己研鑽)

- ・男女を問わずキャリアを継続させて、生涯にわたり自己研鑽を続ける意欲と態度を有する。

医学教育モデル・コア・カリキュラム (H13.3策定、H19.12、H23.3改訂) (概要)

- 学生が卒業時まで身に付けておくべき、必須の実践的診療能力(知識・技能・態度)に関する到達目標を明確化
- 履修時間数(単位数)の3分の2程度を目安としたもの(残り3分の1程度は各大学が特色ある独自の選択的なカリキュラムを実施)
- 冒頭に「医師として求められる基本的な資質」を記載、患者中心の医療および医療の安全性確保も明記
- 医学の基礎となる基礎科学については、別途「準備教育モデル・コア・カリキュラム」として記載

教養教育

選択的なカリキュラム(学生の履修時間数(単位数)の3分の1程度)

※各大学が理念に照らして設置する独自のもの(学生が自主的に選択できるプログラムを含む)

人文・社会科学・数学・語学教育など

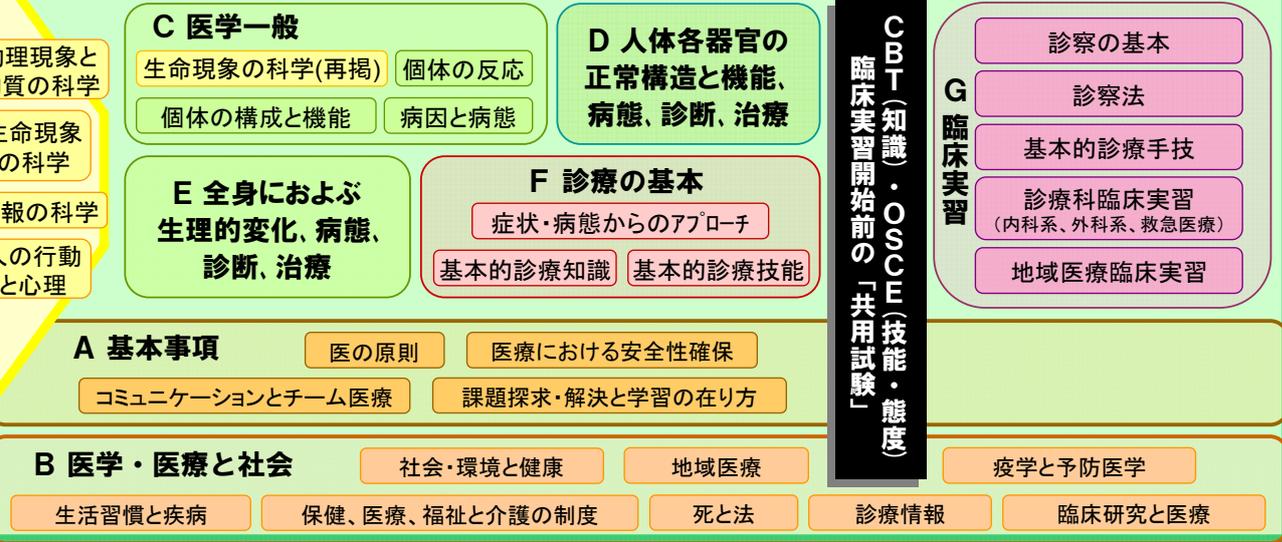
準備教育モデル・コア・カリキュラム

- 物理現象と物質の科学
- 生命現象の科学
- 情報の科学
- 人の行動と心理

医学教育モデル・コア・カリキュラム

(学生の履修時間数(単位数)の3分の2程度)

医師として求められる基本的な資質



医師国家試験

歯学教育モデル・コア・カリキュラム (H13.3策定、H19.12、H23.3一部改訂) (概要)

- 全ての歯学部学生が卒業時まで共通して修得すべき必須の基本となる教育内容(一般目標)と到達目標を明記
- 学生の履修時間数(単位数)の概ね6割程度を目安としたもの(残り4割程度には各大学が特色ある独自のカリキュラムを実施)
- 冒頭に「歯科医師として求められる基本的な資質」を記載、患者中心の医療および医療の安全性確保も明記
- 歯学の基礎となる基礎科学については、別途「準備教育モデル・コア・カリキュラム」として記載

教養教育

各大学が理念に照らして設置する独自のカリキュラム

(学生が自主的に選択できるプログラムを含む 学生の履修時間数(単位数)の概ね4割程度)

数学・生物学・化学・物理学・語学教育など

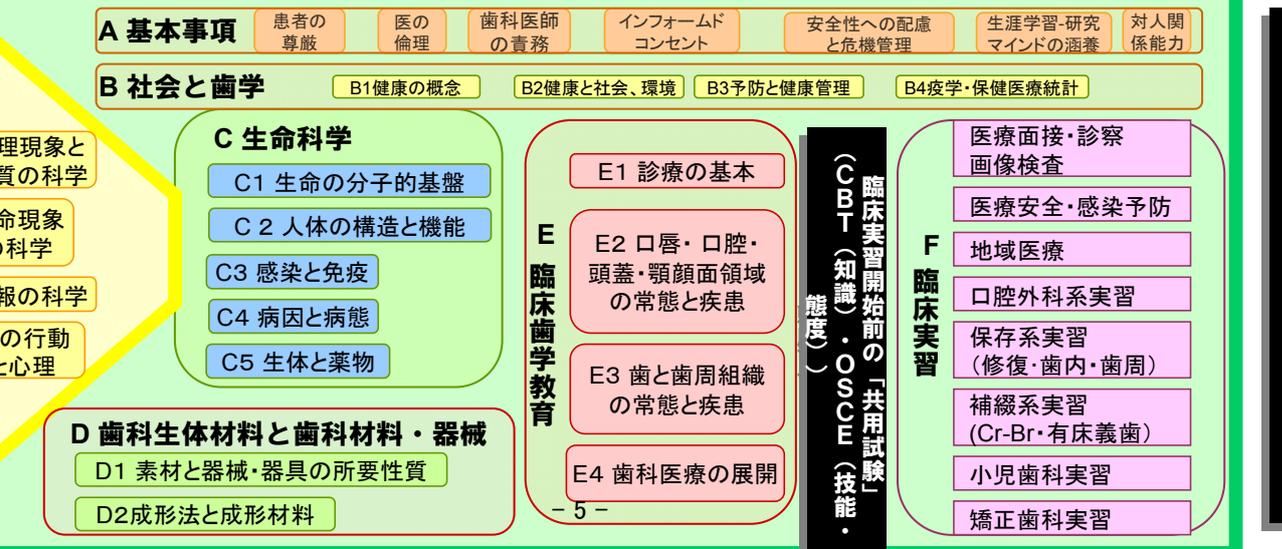
準備教育モデル・コア・カリキュラム

- 物理現象と物質の科学
- 生命現象の科学
- 情報の科学
- 人の行動と心理

歯学教育モデル・コア・カリキュラム

(学生の履修時間数(単位数)の概ね6割程度)

歯科医師として求められる基本的な資質



歯科医師国家試験

医学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂に 向けた医学調査研究チーム 第1回会議報告

医学調査研究チームリーダー
東京大学大学院医学系研究科附属
医学教育国際研究センター教授
北村 聖

1

医学チーム実施体制(アイウエオ順)

(医学教育)

- 生坂 政臣 千葉大学医学部附属病院総合診療部長
- 泉 美貴 東京医科大学教授(病理学)
- 江頭 正人 東京大学准教授(老年医学、臨床研修)
- 大滝 純司 北海道大学教授(総合診療)
- 岡崎 仁昭 自治医科大学教授(地域医療・膠原病、アレルギー)
- 片岡 仁美 岡山大学教授(総合内科)
- 北村 聖 東京大学医学教育国際研究センター教授
- 佐々木 努 群馬大学准教授(神経生理、脳外科、海外PhD)
- 高田 和生 東京医科歯科大学教授(ハーバード研修、膠原病、リウマチ)
- 堤 明純 北里大学教授(公衆衛生、行動科学)
- 錦織 宏 京都大学准教授(医学教育)
- 野田 雅史 東北大学講師(呼吸器外科、シミュレーション教育)
- 長谷川仁志 秋田大学教授(循環器内科)
- 前野 哲博 筑波大学教授(総合診療科)

(協力者)

- 齋藤 宣彦 社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構副理事長
- 石田 達樹 社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構事業部長
- 稲毛 一秀 文部科学省技術参与、千葉大学助教
- 孫 大輔 東京大学医学教育国際研究センター講師
- 福島 統 東京慈恵会医科大学教授(教育センター)

○: チームリーダー

2

コアカリ改訂における基本方針(医学)

目次

●基本方針

1. コアカリ、グローバルスタンダード、国家試験出題基準等の整合性
2. 総量のスリム化
3. 参考資料の整理
4. 「医師として求められる基本的な資質」の実質化
5. 世界への発信
6. 疾病構造変化を踏まえた習得すべき基本的事項の再整理
7. キャッチフレーズ(医歯学共通)

●今後の方針

3

コアカリ改訂における基本方針 (医学)

1. コアカリ、グローバルスタンダード、国家試験出題基準等の整合性

① コアカリ(GIO、SBO)と、グローバルスタンダード(学習成果基盤型教育)との関連性の明確化

- ・ 文言の統一:「一般目標」を、「到達目標」に変更
- ・ 到達目標を定め、内容の再検討・削除

② コアカリと、国家試験出題基準等との整合

医師国家試験や臨床研修、専門医、生涯教育との一貫性を見据えた検討

4

コアカリ改訂における基本方針 (医学)

2. 総量のスリム化

- ① “コア”(2/3程度の時間数)としての項目の厳選
- ② 「準備コアカリ」の見直し・削除

3. 参考資料の整理

- ① 指導方略の提示
 - ・ 指導者に向け、指導法(方略)の明示
 - ・ 資料の提示、共通教科書の作成
- ② 臨床実習に関する資料の刷新

5

コアカリ改訂における基本方針 (医学)

4. 「医師として求められる基本的な資質」の実質化

- ① グローバルな潮流や、国民からのニーズの反映
 - ・ グローバルスタンダード: アクティブ・ラーニング、早期臨床体験実習、水平的・垂直的統合教育、診療参加型臨床実習、多職種連携教育、地域医療教育、卒前・卒後教育の連続化、研究マインドの涵養、生涯教育など
 - ・ 国民のニーズ: 医療安全・倫理感の涵養、公衆衛生・社会保障、実践的臨床能力、高齢社会への対応(地域包括ケア)、新専門医制度への対応など
- ② 基本的な資質のコンピテンシー、実施施策の具体化

6

コアカリ改訂における基本方針 (医学)

5. 世界への発信

- 英文翻訳(歯科と共通)。ただし、グローバルスタンダードとの整合が必要。

6. 医学・医療の進歩や疾病構造の変化を踏まえた習得すべき基本的事項の再整理

- 腫瘍および複数の臓器にまたがる疾患の強化:病理形態診断、遺伝子診断などの充実。
- 各論は、各学会等が主導するモデルカリキュラム作成も検討。

(例)医学部卒前遺伝医学教育モデルカリキュラム

日本医学会、全国遺伝子医療部門連絡会議、日本人類遺伝学会、日本遺伝カウンセリング学会が連名で、医学教育モデル・コア・カリキュラムを受け、すべての医学生が卒業までに修得すべき遺伝医学・遺伝医療の内容を提示したガイドライン

7

コアカリ改訂における キャッチフレーズ (医科・歯科共通)

「多様な医療ニーズに対応できる 医師・歯科医師の養成」

国際的な公衆衛生や医療制度の変遷に鑑み、国民から求められる倫理感・医療安全、チーム医療、地域包括ケア、健康長寿社会などのニーズに対応できる実践的臨床能力を有する医師・歯科医師を養成する。

8

コアカリ改訂における今後の方針 (医学)

多方面からの意見の聴取

1. 調査研究チームにより、主要学会、医師会、日本医学教育評価機構(JACME)、患者の会などへのインタビュー(半構造化面接)調査の実施
2. 「医学・歯学教育指導者のためのワークショップ」での事前アンケートの実施

9

本日特にご議論いただきたい事項 (1)

(全体的な事項)

1. 教員向けの教え方(方略)や、臨床実習への言及をどこまで行うか(参考資料の整理)
2. コアカリを軸としたグローバルスタンダードの構築をいかに行うか(項目記載方法の再確認)
3. 「医師として求められる基本的な資質」をいかに記載するか(記載項目の再確認)
4. 医師としての多様なキャリア形成が見える工夫をどのように行うか

10

本日特にご議論いただきたい事項 (2)

(個別の事項)

5. 倫理と医療安全
6. 多職種連携
7. 医師としての研究マインドの涵養と研究者養成のためのさらなる方策の検討
8. 公衆衛生と社会保障(医療制度)
9. 高齢化社会(在宅、終末、地域包括ケア)
10. 疾病構造変化を踏まえたcommon diseaseの再検討
11. 準備コアカリ記載内容についての再検討
12. その他